

港区神宮寺学区

震災避難行動マップ

顔の分かる関係づくりが一番の備え!日頃のあいさつからつながり強化!

凡 例

- 指定避難所
- 津波避難ビル
- 地域防災協力事業所
- AED
- 広域避難場所
- 一時避難場所
- 地下式給水栓

わが家の津波避難先



指定緊急避難場所

命を守るため、災害の危険からまずは逃げるための場所

災害の種類	指定緊急避難場所	開設基準
洪水・内水氾濫	想定浸水深以上にある市立小・中学校など	「避難準備・高齢者等避難開始」発表
土砂災害	土砂災害警戒区域にない市立小・中学校など	
津波	津波避難ビル	伊勢・三河湾に大津波警報発表
地震の揺れ	・公立小・中・一部の高校などのグラウンド ・広域避難場所 ・一時避難場所	震度5強以上の地震
大規模な火事	広域避難場所	

【参考】避難情報の種類

避難指示 (緊急) **高**

避難勧告 **緊急度**

避難準備・高齢者等避難開始 **低**

火災・倒壊に注意

住宅密集

高さ2.2mを超えている

厚さ10cmより薄い

傾いている

ひび割れている

※写真は全国建築コンクリートブロック工業会資料より引用

津波避難ビル

地震が収まったあと、津波による危険から命を守るために滞在する施設

施設名称・マンション名	所在地	階層	収容人数
1 神宮寺小学校	神宮寺二丁目501	3	1,079
2 惟信南荘(南北棟部分)	惟信町5丁目37	7	420
3 シャトービオレ	神宮寺二丁目102	4	31
4 特別養護老人ホーム なごやかハウス神宮寺 神宮寺シルバー住宅	神宮寺二丁目201	7	150
5 アビタシオン山田	甚兵衛通4丁目1-1	6	200
6 シーガル宝神	宝神町字会所裏706-44	8	456
7 株ワキタ 名古屋みなと営業所	神宮寺二丁目702	2	107



★日頃からマップを活用して備えよう★

- ①大地震が起きてからでは遅い! 日頃から家庭で話し合ひましょう!
- ②自分自身・家族の津波避難先を2か所以上考えておきましょう!
- ③学区の外の施設への避難も含めて、津波避難を考えましょう!
- ④避難する際には声かけが大切! 両隣など近所の方と確認し合ひましょう!
- ⑤すばやく無事を確認し合う方法を、町内など近所の方と話し合ひましょう!

わが家は無事です。

避難生活 指定避難所

災害が落ち着いた後、自宅が被災して帰宅できない場合、一定期間、避難生活を送るための施設(公立小・中・一部の高校の体育館・コミュニティセンターなど)

施設名称	所在地	避難場所	収容人数
1 神宮寺小学校	神宮寺二丁目501	体育館、情報ルーム 図工室	352
2 神宮寺コミュニティセンター	宝神町字会所裏724-1	第1会議室 第2会議室	29
3 多加良浦保育園	多加良浦町5-3	遊戯室	127

地域防災協力事業所

服部内科・小児科医院	多加良浦町5丁目1-1	一時的な避難場所(敷地)の提供
愛知機械工業(株) 惟信クラブ	惟信町4丁目9	一時的な集合場所(駐車場)・一時的な避難場所(建物一部・研修室及び大広間)の提供
株竹内	惟信町6丁目5	生活用品(飲料水等)の提供、救助活動用資機材提供、一時的な避難場所(屋外駐車場)の提供等
有達弘組	高木町4丁目29-4	救助活動等の資機材(4人用ロール車・4人用車・発電機・チェーンソー・スコップ等)の貸出及び操作人員の提供等

南海トラフ巨大地震発生時の対応

～大声で 声をかけ合い 一斉避難！～

港区神宮寺学区 災害時の特性と対策

南海トラフ巨大地震が発生した場合、震度6強の非常に激しい揺れが想定されます。自分の身を実守るため、日頃から家具の転倒防止などの耐震対策に努めましょう。

また、津波が他の地区よりも早く到来します。浸水が2.0mから3.0mに及び箇所もあります。名古屋港への最短津波(※)到達時間は96分と予測されており、遡上はその後始まります。この時間を最大限に使って津波避難ビルへ避難しましょう。

また、液状化現象も起きる可能性も高い地区です。建物が傾いたり、路上に泥水があふれ出して通ることができなくなります。これらを踏まえ、適切な避難先と、そこまで安全にたどり着くための経路をあらかじめ考えておきましょう。

(※)津波高30cm。30cmの津波でも人は流される可能性があります。

- 身の安全を確保する
- 安全に消せる場合は火を消す
- 可能であれば、扉を開けて出口を確保する
- 倒れそうなタンスなどの家具、ガラス戸から離れる
- 机の下に隠れ、机の脚を掴み、低い姿勢で身を守る
- 屋外にいる場合は、建物やブロック塀など、倒壊の危険がある場所からすぐ離れる



提供 効果的な防災訓練と防災啓発提唱会議

避難する時間がなくないそうなときは、声をかけて、自分自身の安全を確保！

- 家族、隣近所への声かけ、安全・安否の確認、情報交換する
- 家屋、近所の被害状況、危険度を確認
- 火元を消す・ブレーカーを落とす
- ガス・水道の元栓を閉める
- 扉を開けて出入口の確保する
- テレビやラジオ等で正しい情報を収集
- 非常持出袋を確認する

津波避難ビルを目指して避難開始

<声かけ・避難支援のポイント>

- ① 町内の組単位、お住まいの階ごとなど、隣近所で「声かけ」して、無事を確認しあう
- ② 無事が確認できた住民同士で、無事が確認できないお宅へ「大きな声で」声かけを繰り返す
- ③ 一人で避難できない方を助けながら、津波避難ビルへ避難する
- ④ 避難の際は、近隣で助けを求められないか、大きな声で確認しながら避難する
- ⑤ 逃げ遅れて大切な命を落とすことのないよう、津波到達予測時刻の30分前までに避難完了する

津波発生時の地域での声かけ・避難支援

隣近所など地域での「声かけ」と「避難支援」が大事な命を救います。

地震の揺れがおさまったあとは、地域の皆さんで声かけをし、いち早く避難行動が取れるよう協力しましょう。

また、日頃から一人で避難できない方（高齢者・障がいのある方など）を隣近所で把握しておきましょう。

情報の入手や判断が難しい方

(例えばこんな方)

目が見えない方、耳の聞こえない方、認知症の方、知的障がいのある方、日本語が苦手な外国人、ひとり暮らしの高齢者や高齢者のみの世帯など

(対応方法)



優しい言葉でゆっくり声かけ

メモや、身振り手振りで伝える

移動が難しい方

(例えばこんな方)

首段、杖・押し車・車椅子などを使っている人、寝たきりの人、けが人、病人、妊婦さんなど

(対応方法)



複数で手伝う

身近にあるものを利用する

<集合住宅にお住まいの方へ>

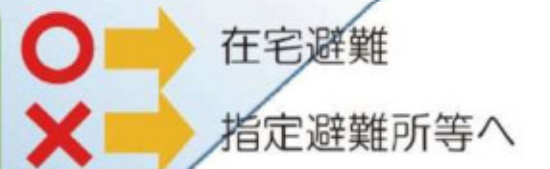
地震の大きな揺れから建物が無事で、かつ火災などの危険がない場合、3階以上にお住いの方は「在宅避難」も選択肢に入れましょう！

津波警報解除 避難勧告解除

- 避難に適した靴を履いて外に出る
- 逃げ遅れないように早目に避難を始める
- 隣近所へ大きな声で声をかけながら、あらかじめ決めた津波避難ビルへ向かう
- ラジオ、スマートフォンなどで適宜、情報を確認する
- 持てる量の非常持出袋を持って行く
- 落下物など周囲に気をつける

災害の危険解消

自宅での滞在が可能か



地震発生

揺れがおさまった

津波から安全に避難するための5つのポイント

①揺れがおさまったら高台へ、時間がなければ津波避難ビルへ避難！



②隣近所へ声をかけ、原則徒歩で避難！



③高齢者や障がいのある方などの避難支援を！



④引き返さない！安全確認が済むまで避難継続を！



⑤海岸や川沿いには絶対近づかない！

